

桜蔭俳話会 三月句会 (第三二三回)

平成二十五年三月二十四日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート) 会議室

4点 菜の花や島へ繋がる橋ひとつ

明美

ひかぬ様努力の果ての春の風邪

友子

啓蟄や歩巾大きく小買物

友子

歯の治療窓に四角き春の空

秀一

告別の声の気丈や花馬酔木

守

友よりのみやげに匂ふ桜もち

ツル子

3点① 覚えなき人の目礼暮の春

幸

残雪の孤峰鳥海昏れにけり

幸

① 春耕の翁の鋤の光りをり

ツル子

欲しきもの大きにありが遠桜

幸

2点① 野球子のすべり込みセーフ東風吹けり

友子

デパートの並びしずらり夫婦びな

真三

① 会合の通知つきつき春深し

溪水

オルガンやソプラノ降りき春舞台

真三

① てれ笑ひ丸ごと新品入学す

ツル子

雛納む古き木箱の吾が名前

友子

たんぼぼに名札持たせり植物園

秀一

春ともし流行りの消せるボールペン

秀一

原発の冷温停止つつじ燃ゆ

守

神楽坂の黒塀しづもる春の昼

友子

苗植えて五十年後の森胸に

溪水

春の朝生きて聞きたる鳥の声

真三

ざはめきの花見に眠る赤子かな

明美

猫連れて山駆け廻れ花に散る

幸

ハイカーを吐き出す駅や春の空

溪水

崩れてく飛行機雲や春うらら

ヤエ子

土手下りる長きオールや春浅し

秀一

(不在投句 古野明美、瀬戸溪水)

1点① 暮れ泥む町に大きな春日輪

ヤエ子

① ういろいろはさくら色なり花咲月

ヤエ子

春の街ペペロンチーノ昼餉とす

真三

法廷の人間模様春怒濤

幸

「事務局から」

道のりを忘れし奥へ里の春

ツル子

① 四月定例会は、四月二十八日(日)午後一時三

春の雪雪だ雪だと叫ぶ子等

溪水

十分から、相鉄線俣川駅ライフ五階サンハートで

やゝ褪せて心の淵の櫻かな

守

行います。

ひな飾り生まれし年を数へをり

ツル子

通信句会だけでなく定例会にも是非ご参加くだ

春さざすオクターブあがる子等の声

ヤエ子

さい。お待ちしています。

また同じ話に沸くや桜餅

秀一

② 次回通信句会の投句用葉書を、今月二十日頃お送

音もなくサイバーテロや花の闇

明美

りします。春の句三句ですので、ご用意いただけ

遣されしもの見てゐる桜かな

守

ればと思います。

ゴビ砂漠離れし黄砂一身に

明美

※

歩行器に頼る花見や風薫る

溪水

掃き難しなほ色のある落椿

ヤエ子

神々のそつと見てゐる櫻かな

守

スーパリーのパックに土筆一掴み

明美

沈丁花祈り家中香の流る

真三

手の平に載る程の幸桜貝

幸